

## 0550 | ワークショップ研究Ⅱ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

杉山貴洋講師

## 授業の概要と目標

「ワークショップ研究Ⅰ」を単位修得した者を対象に、さらにワークショップの実践を発展させ、研究するための科目である。とくに、記録と検証を重視する。ワークショップの企画に携わり、実践を試みる。その上で、ワークショップをグループ活動に使う可能性を検証する。また、そのプロセスを記録し、活動に還元し、グループワークの広がりを考察する。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

「ワークショップ研究Ⅰ」を履修し、どのような活動に参加し、どのような考察をしたのか、ワークショップ研究Ⅰを振り返り議論を行う。グループで行うワークショップを計画し実践をする。また、その展開の方法を検証する。

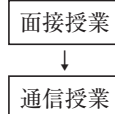
グループワークや体や言葉を使ったコミュニケーション活動などを含む。

## ○通信授業課題

各自の家庭や職場、地域や社会施設でワークショップの企画に携わる。または、美術館や社会教育施設で募集されているワークショップのボランティアに参加する。具体的な方法はスクーリングで紹介されるものを参考にする。また、その記録とレポートを合わせて提出する。

\* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画



面接授業→通信授業とする。

## [面接授業]

第 1 日 ワークショップ研究Ⅰのレポートを発表し、クラスメイトで議論を行う。

第 2 日 1 日目の議論をもとに、クラスメイトを巻き込んだワークショップを企画する。

第 3 日 2 日目に企画したワークショップを成立させ、その案内役を務める。その後、クラスメイト全員で検証する。

## [通信授業]

実践例やマナーなどについて再考すること。その上で、各自の家庭や職場、地域や社会教育施設等でワークショップの企画を立てる。

または、美術館や社会教育施設等で募集されているワークショップのボランティアに参加する。ワークショップ研究Ⅱでは、企画する側からスタートして、グループワークを展開する。そして、そのプロセスをイラスト、漫画、絵日記などで簡潔にまとめる。

また、参加者への招待状や、お礼の手紙を活動の一環として、記録とレポートと合わせて提出する。具体的な方法はスクーリングで紹介されるものを参考にする。

## 成績評価の方法

面接授業と通信授業の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「ワークショップ研究Ⅰ」の単位を修得していること。

[備 考] なし

## 教材等

教科書：高橋陽一監修『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局 2015 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）